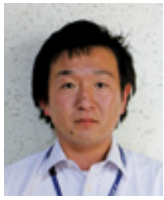


## 夏野菜の代表的な病気 及び生理障害について

【指導員】 園芸果樹課 高橋 達也



まもなく、野菜の収穫最盛期を迎えることと思います。病  
気や生理障害に対応し、高品質で長期収穫できるように努め  
ましょう。

### ◆トマトの葉かび病

【症状】 葉の表面に不鮮明な淡黄色の斑点が生じます。葉の裏には、灰黄色ないし褐色のまだら模様ができ、かびが発生します。

【原因】 多湿条件で発生し、樹勢低下で発生が助長されます。

【対策】 施設栽培で発生しやすいので、換気を十分に行ってください。

【薬剤】 ▼ダコニール1000  
(予防) 1000倍  
▼アミスター120フロアブル  
(予防+治療) 2000倍など



葉かび病のトマトの葉

### ◆トマトのカルシウム欠乏

【症状】 果実の表面や内部が黒ずみます。(尻腐れ)

【原因】 多肥、高温乾燥時に

カルシウムの転流が悪くなる  
と発生します。

【対策】 灌水などにより乾燥を抑え、カルシウム剤の葉面散布をします。

【薬剤】 ▼バイカルティ  
1000倍を葉面散布など



尻腐れを起こしたトマト

### ◆キュウリのべと病

【症状】 葉に淡黄色の小さな斑点が生じます。それが次第に拡大し淡褐色となり、葉脈に囲まれた多角形の病斑となります。葉裏にはカビが生えます。

【原因】 多湿条件で発生。また、樹勢低下時にも発生しやすいとなります。

【対策】 密植を避け、通風及び採光をよくします。敷き藁

やマルチにより土壌からの感染を防ぎます。

【薬剤】 ▼ダコニール1000  
(予防) 1000倍  
▼アミスター120フロアブル  
(予防+治療) 1500倍  
2000倍など



べと病が進行したキュウリの葉

### ◆ナスの半身萎凋病

【症状】 葉や株の片側の下位葉で葉脈間に不鮮明な淡黄色斑が生じ、しおれて葉のふちが巻き上がります。やがては葉の全体に及び、次第に上位葉にも広がり、典型的な場合には株の片側の葉がごとごとくしおれて垂れ下がります。

【原因】 土壌伝染病。発病した残さの中で越冬し、土壌中に数年から十数年生存します。



半身萎凋病にかかったナス

【対策】 ナス科作物の連作を避けます。抵抗性台木を使用した苗の定植や土壌消毒を実施。残さなどは畑の外で処分します。

【薬剤】 ▼ベンレート水和剤  
(予防+治療) 500倍  
1000倍を土壌灌注  
▼クロールピクリン(土壌消毒)  
など

◆ ◆ ◆  
薬剤については一例です。その他登録農薬も多数揃えておりますので、各営農センターなどでご確認ください。また、農薬は随時登録内容の「変更・失効」などがありますので、農薬のラベルをよく確認し、用法及び用量を遵守して散布してください。